



豊中まちなかクラシック2016

日本センチュリー交響楽団とともに

日本センチュリー交響楽団が特別に編成する多彩なアンサンブル。
寺院、教会、オーケストラハウス等を会場に、まちなかで楽しむクラシックコンサート。
豊中市と同楽団が織り成す「音楽あふれるまち」をお楽しみください。

主催:豊中市 共催:日本センチュリー交響楽団

Profile

日本センチュリー交響楽団

Japan Century Symphony Orchestra



©s.yamamoto

日本センチュリー交響楽団は1989年に活動を開始し、創立25周年を迎えた2014年には首席指揮者に飯森範親を、首席客演指揮者にアラン・プリバエフを迎え新たなスタートを切った。ザ・シンフォニーホールやいづみホールでの定期演奏会、東京をはじめさまざまな地域での特別演奏会、アンサンブル活動、「タッチ・ジ・オーケストラ(青少年のためのオーケストラ体感コンサート)」、特別支援学校コンサート、豊中市との協定に基づく「豊中まちなかクラシック」などの多彩な演奏会活動のほか、地域コミュニティとのプロジェクトの推進、ユースオーケストラの運営など教育プログラムにも力を入れている。

「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能を発掘し次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念をもとに、演奏を通して多くの人びとの心に明るい夢が広がることを願い、新しいことに挑戦する、新しい時代のオーケストラとして発展を目指している。

オフィシャル・ホームページ <http://www.century-orchestra.jp/>

かな

フルートとヴィオラとハープで奏でる武満徹とドビュッシー

公演

2

定員 65 人

日時 11月27日(日) 13:30~14:30

会場 東光院 萩の寺

演奏

永江真由子[フルート]
永松祐子[ヴィオラ]
松村衣里[ハープ]

曲目

武満徹:そして、それが風であることを知った
ドビュッシー:フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ
ほか



●東光院 萩の寺
(南桜塚1-12-7)

萩の名所として名高いことはもとより、正岡子規をはじめ多くの俳人が訪れ、数多くの句碑や奉納句を今に伝えます。ハーモニの典雅な響きは、名木で造作されたこの寺の本堂ならではの醍醐味です。

演奏者から

武満徹没後20年の今年、伝統ある古寺での演奏機会をいただき、真先に《そして、それが風であることを知った》が浮かびました。日本的な美しさを西洋の楽器を通して表現した武満作品にとって、「萩の寺」は最適なロケーションといえるのではないのでしょうか。その武満が自身の作風に最も影響を受けたドビュッシー。《フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ》は最晩年の傑作です。3つの楽器で織りなす稀有な響きから、日仏が誇る芸術家の意外な共通項を見出すことが出来るでしょう。この2作品に加えて「フランスのモーツァルト」と呼ばれたドゥヴィエンヌのフルートとヴィオラの二重奏曲を取り上げます。名曲《月の光》とともに、フランスと日本の美をお楽しみください。(フルート/永江)



永江真由子・永松祐子

松村衣里

